

# 令和5年度 学校評価書

評価基準

4、A(期待以上…8割以上) 3、B(ほぼ期待通り…5～8割) 2、C(期待を下回る…2～5割) 1、D(改善を要する…2割未満)

都城市立笛水小中学校

本年度の重点目標	評価項目	児童生徒	保護者	教師	学校の自己評価コメント	自己評定(総合)	学校運営協議会評価	学校運営協議会コメント
確かな学力の定着	1 児童生徒一人一人の理解度や達成状況に合わせて教科指導を行っている。	3.6	3.8	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人カルテのアップデートとそれに伴った授業が展開できた。ICTも授業で積極的に活用できたが、Qubenaをもっと有効活用し、さらに個に応じた指導に役立てていきたい。</li> <li>○ 小学部は作文コンクール、スピーチ活動に積極的に取り組んだ。中学部の生徒にも朝の会や帰りの会でスピーチ活動に取り組ませたり、作文活動にももう少し取り組ませしていきたい。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MRTラジオ「私たちの作文」でよく聞いている。表現力がすばらしく文章もしっかりしており、大変うまいと思う。</li> <li>○ 読書活動の評価が低いようですので、来年度に向けた対策をお願いしたい。</li> <li>○ 小学部の私たちの作文コンクール等、積極的に取り組み今後も継続していけたらいいと思う。</li> <li>○ 中学部の先生方が小学部の授業をすることは、大変いいと思う。</li> <li>○ 少人数での授業、一人一人の学力を把握していただいているのはありがたい。</li> </ul>
	2 ICT活用を図った授業実践に積極的に取り組んでいる。	3.6	4.0	3.5				
	3 授業や朝自習の時間に習熟の時間を設定し、反復学習を徹底している。	3.3	3.4	3.4				
	4 児童生徒に読書活動を奨励し、作文やスピーチ活動を通して表現力を育成している。	3.3	3.2	3.2				
豊かな心の育成	5 道徳の授業を通して、生命の尊重や感謝の心、思いやりの心を育てている。	3.9	3.6	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な活動において、上級生が下級生を支援し、思いやりの心を育むことができた。下級生も上級生を思いやる姿が見られた。</li> <li>○ 交流学習を通して他校の児童生徒と触れ合う機会をつくることができたが、今後も継続し、自ら積極的に他者と関わろうとする姿勢を身に付けさせたい。</li> <li>○ キャリアパスポートを活用し、自己について振り返らせるとともに、キャリア教育の視点を意識して行事を計画していきたい。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流活動の機会が多いと大勢の中での活動が積極的になる。そうすることにより、自分の自信にもつながると思う。</li> <li>○ 交流活動について、私も小中学校時代、過去何回か交流に参加しましたが、やはり積極的な交流はできなかった。来年度の対策をお願いしたい。</li> <li>○ 本校しか出来ない上級生が下級生を支援する姿がいいと思う。特に運動会など、よく分かる。</li> <li>○ いろいろな活動を見て、上下関係がしっかりとできていると思う。</li> <li>○ 小学生・就学生と一緒に活動できる機会、地域の方々と一緒に作る機会は得難いと思う。</li> </ul>
	6 教育相談週間の他、機会をとらえて生徒の悩みや相談に適切に対応している。	3.4	3.3	3.5				
	7 キャリア教育の視点や思いやりの心を位置付けるなど、学校行事を工夫している。	3.7	3.6	3.0				
	8 交流活動を通して、大勢の集団で、積極的に交流しようとする姿勢を育成している。	3.2	3.5	3.1				
たくましい身体づくり	9 体力向上プランに則って、体力向上を図ることができている。	3.6	3.7	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の意欲を高める手立てがとれ、体力の向上に繋げることができた。</li> <li>○ 食育やメディアコントロールについての指導、その他の健康指導、家庭での生活習慣についての啓発ができたが、保護者の出席率を高める工夫をしたい。</li> <li>○ 運動に親しむ中学生が少なかった。生徒自らが運動に親しむ機会を増やす手立てをとりたい。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病気をしない体力づくりによって、学校生活、家庭生活にプラスになる。</li> <li>○ 体力の向上は、学校と家庭での食育指導が大事。特に、家庭の方が大事ではないかと考える。</li> </ul>
	10 業間や昼休み時間等を活用して、児童生徒が運動に親しむ場を設定している。	3.7	3.5	3.2				
	11 学校栄養職員による講話や弁当の日の取組等を通して、食育指導をしている。	3.4	3.6	3.7				
家庭・地域との連携の推進	12 教育目標(感謝の心もち、笛水をほこれる児童生徒の育成)の達成に努めている。	3.9	3.7	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページや学部通信など、積極的に情報を発信することができた。</li> <li>○ 運動会や文化祭をはじめ、地域の方々や保護者のご支援があり、満足度の高い協働活動が展開できた。</li> <li>○ 家庭でのメディアの取扱い、早寝早起き朝ごはんといった生活習慣に関する評価が低く、次年度も引き続き児童生徒や保護者への啓発活動を行っていきたい。</li> <li>○ 特にメディアの取扱いについては、家庭でのルールなど学校や保護者からの押し付けにならないよう、児童生徒に主体的に考えさせるようにする必要がある。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 早寝、早起き、朝ごはん、スマホ、テレビゲーム等全部関連していると思う。家庭で話し合っ、いい方向に改善していく必要があると思う。また、親子の対話が大切だと思う。</li> <li>○ 今年は、運動会・文化祭共に見学・参加できてよかった。他の行事も予定通り。地域との連携もバッチリ。</li> <li>○ 地域との連携は、バッチリと思う。課題は、やはり児童生徒と保護者との連携だと思う。幸い対象家庭数も少ないので、きめ細かな対応をお願いしたい。</li> <li>○ 稲作体験活動、運動会、秋祭り等、積極的に取り組むことができていた。</li> </ul>
	13 ホームページや保健だより、学級通信などで積極的に情報を伝えている。	3.7	4.0	3.8				
	14 児童生徒や保護者に、テレビやゲームについて時間などのルールを啓発している。	2.7	2.7	3.1				
	15 児童生徒、保護者に対して、早寝・早起きが自主的にできる指導を行っている。	3.2	3.2	3.0				
	16 児童生徒や保護者に、毎朝、家族といっしょに朝ごはんを食べよう啓発している。	2.9	3.0	2.9				
	17 教育活動に地域の人材を積極的に活用している。	3.9	3.8	3.9				